会　議　録

会 議 名	令和元年度第３回橋本創生総合戦略審議会			
日　　時	令和２年３月 17 日（火）午後１時 00 分～			
場　　所	教育文化会館　４階　第５展示室			
出 席 者	委　員	藤田　武弘	乾　幸八	平家　利也
		大原　康平	澤村　優希	深海　君彦
		中嶋　浩晶	小林　俊治	森川　嘉久
		【出席委員：９名】		
次　　第	１．開会 ２．議事 （１）橋本創生総合戦略案について （２）意見交換 （３）その他 ３．閉会			
資　　料	資料１：橋本創生総合戦略（最終案） 資料２：橋本創生総合戦略目標、指標設定（2020-2024）			

１. 開会

・事務局より開会の挨拶、資料確認を行う。

２. 議事

（1）橋本創生総合戦略案について

（会　長）　前回の議論の中でいくつか目標が示されていたが、総合戦略はもっと重点的なものに絞り込んで設定してはどうかという意見が出ていたので、本日の資料はそれが反映されたものとなっていると思います。

それでは総合戦略案について基本目標１，２，３併せて、具体的な目標設定についてご説明をお願いします。

【資料２：橋本創生総合戦略目標、指標設定（2020-2024）】

・事務局が資料に基づき目標、指標設定について説明。

⑵意見交換

（会　長）　それでは、今の説明に対してご意見ご質問等があればどうぞ。
農業関係ではどうでしょうか。

（委　員）　前回よりも具体的になったのは良いが、数値に違和感がある。
産地化事業参加農家数が 6 戸から 100 戸に増やすと言っているのに、その農産物の売り上げが 1 戸あたり 10 万円というのは少し少なすぎるのではないか。
ふるさと納税の返礼品についてもアイテム数を増やすのではなく、一つの商品の価値を上げていくべきではと思います。
農地中間管理機構を活用した農地の貸借実績とあるが、貸出面積よりも、どれぐらいの農地がそこに登録されているのかというのが重要なので、登録件数を増やすほうがいいのではないか。

（会　長）　この目標をみると、かかわった農家への還元をするというよりも産地化に関わる農家を広く増やそうという風に受け取れる。

（委　員）　農産物のブランド化を掲げるのであれば、売り上げの目標は大きく持ってもらったほうがいいのではと思う。
実際の農家の売り上げの内、何割ぐらいを高野山麓精進野菜が占めるのかを考えたときに、一人当たり 150 万から 200 万円ぐらいが目標になるんじゃないかと思う。

（会　長）　おそらく、精進野菜を作る農家さんは一品目を大量にということではなくて、多品目型をイメージしていると思います。
そういう農家さんが直売所へ出品したときに、年間の平均の売り上げが 70～80 万なので、ここで 10 万円となると橋本は野菜が少ないとはいえ目標設定としてどうなのかというところはある。
一度担当課にも確認をしてください。
商工や観光の部分では何かご意見はありますか。

（委　員）　商工業で言うと、市内事業所数の目標値が基準値、目標値ともに 655 となっているが、これは地元企業が減って、誘致企業が増えることを見込んでの数字なのかどうか。
売り上げというのも書いているが、売り上げベースよりも営業利益がどれだけ出ているのかというのが大事だと思う。
産業といっても、これからも続いていくもの、停滞してしまって

いるもの、新しく出てくるものなどがあるので、そのタイプによって支援の方法も変わってくる。
結局どういうところを伸ばしていくのかというのが重要になってくる。
売り上げだけを伸ばすのではなく、コンパクトに最小の労力で最大の利益を生むシステムづくりができていることを評価できるといいと思います。

（会　長）　今のご意見について事務局からなにか回答できるところはありますか。

（事務局）　市内事業所数については、人口の減少もあるなかで、それに比例して減少してしまうことを避けたいということで現状維持となっています。

（委　員）　人口は減るけれども、事業所の割合は増えるということですね。

（会　長）　なかなか人口が増加していた時のような右肩上がりの目標というのはどことも掲げられなくなっていて、実は維持するということが相当大きなハードルだったりします。
ただ、数値だけではそれが見えないので、その中身をどこかで説明する必要があるのでは。

（委　員）　事業者数自体が、後継者不足の問題があって、事業継承するところも減ってきているので、そこのリサーチも必要なのかなと。
実際、すごくいい技術を持っているのに後継者がいないというところが多い。
事業所を維持していくというのであれば、後を引き継いでくれる経営者や会社を探してくるなどが考えられる。

（会　長）　農業で言うと、自給農家、販売農家それぞれの分類ごとに後継者の見通しというのが5年ごとのセンサスで調査されていて、それをベースに考えていくんですが、商工業の分野ではセンサスで出てきているこういった数字を持ったうえで施策を行っているんですか。

（委　員）　おそらく、事業継承についての細かい数字というのは持っていないと思う。商工会の方でも 550 弱ほどの会員さんがいるが、事業継承についての細かい数字は持っていない。そのあたりの共通したアンケートとか、調査データというのがこれから必要になってくるのかなと思うので、それを基に 655 の目標に向けてどんな施策をしていくのかにつながってくる。

（会　長）　どういう形態のどういう規模の事業所をどのように残していくのかというところですね。

（委　員）　そうですね、小規模のところを増やしていくのか、中規模のところを増やすのかというような戦略が必要なので、それを考えるためにもさっき言ったようなデータがあるといいのかなと思います。

（会　長）　今の議論の内容は事業所の数が同じことをどう考えるのかというところに関わって話が進んでいるんですが、橋本市の経済を支えていくにあたって、外から来る企業頼みではなく、中の関係業者がお互いに支え合うような仕組みをつくって、経済循環を高めていきたい。そう考えたときに一番大事なのは、数の質的な部分ですよね。どういうタイプの企業が残っていて、跡がいるのかいないのかをしっかりと分析したうえで、その組み合わせを考えていくというのが必要となってくるので、それを目標に反映していってもらいたい。
振興局としてはそのあたりどうですか。

（委　員）　設定した目標値は一定のトレンドに当てはめているのかなという感じがします。目指す目標値は中身が大事で、戦略としてどう進めていくのかというところで、そもそもの話なんですが、商工業の項目に書かれている施策の展開と進捗管理目標とのつながりがわかりにくいかもしれない。
違う項目になるんですが、観光のところで、インバウンドに向けて重点的に取り組むといわれていますが、高野山麓地域では外国人の宿泊というのが年間 500 人ぐらいと非常に少ない。高野は 11 万人ほどいて、橋本駅なんかではたくさんのお客さんがいる。
今回の戦略はこのインバウンドを取り込むというイメージなのかと思うんですが、であれば、目標の中に外国人の入込客数や宿泊者数というのを入れていけばよいのではないか。

（委　員）　観光のところで、ビジネスの観点からの話になるんですが、橋本に対する経済的な効果で言うと、インバウンドのお客さんよりもビジネスで来ているお客さんのほうが経済効果的にはあるのではないのかとも思う。観光だけではなくて、ビジネスできた人が充実できるようなことが必要で、その人が引退してからもまた橋本に来てくれるような感動を与えることが出来ればいいと思います。
インバウンドだけだと高野山頼みになってしまうので、今のようなコロナの影響などですごく減ってしまう。
ビジネスや湯治で訪れる人を対象としていくほうがいいのではないかと思う。

（会　長）　今のビジネスとかもそうですけど、世界の流れで言うとそのカギを握るのは地域資源の食というところが大きくて、食の物語、ストーリーがローカルフードを提供する仕組みの中にあれば、それに感心する人が多いですよね。
一般的なヨーロッパの人もそうだし、中東あたりの所得の高い人たちもそういうところに関心が高いので、高野山頼みにならなくても、橋本の食というのを演出したようなレストランとかがあって、みんなが後押ししているということが伝われば、ずいぶんとメッセージ力は強いと思います。その点で私が思うのは、農商工連携であったりとか6次産業化といった項目が出てきていなくて、それぞれの担当課の目標単位でしか上がってきていない。連携された項目がもっと強いところに来ないのかなとも思うんですが、それぞれの部局で施策を立てていくときはどちらも気を使うのか、なかなかうまく出てこないんですよね。
だけど、それを仕組んでいく場がこういった総合戦略であったり長期総合計画であるのかなという気はするんですけど、部局をまたがった施策というのは今まで橋本市はどのように進めてきているんでしょうか。

（事務局）　今回の総合戦略には部間をまたいだような施策というのはなかなか記載できていません。

（委　員）　実際難しいですよね、産学連携や農商工連携というのがあるけど、まず相手方と組むことが難しい。
相手のことをあんまり知らないんで、例えば産学連携となってもどの学部に話をすればいいのかわからないし、農家さんといって

も、どの農家さんとつながればいいのかがわからない。
なので、それをプロデュースする人というか、コンシェルジュする人の能力が必要になってくる。
今、共育コーディネーターもそうなんですけど、個人のセンスでかなり差が出てしまう。
例えば、企業同士で連携するとなってもなかなかつながらないので、そこをよく知っている中間的な人がいて、マッチングを行うことをしていくといったことがいるのかなと思う。
そういうコーディネーター的な人が市内外を問わず来てくれれば。
県からも来てくれるんですけどもう一つ弱いんですよね。やっぱり体裁的になっていて、目からうろこのようなことがない。
簡単に連携といっても仕組みをしっかりと作っていかないと意味がない。

（会　長）　国でもそこは一緒で、いろんな省庁があるが今回の計画もそうですけど、縦断的なまたいだところについて発言できるところは総務省であったり内閣府になっているんですね。それにあたる場所が、橋本で言うと企画部門だと思うんですね。
担当各課に確認してもらうのもいいんだけど、企画部門はそれぞれをつなぐような役割がもっとあるんではないかという気がしていて、行政の組織の中でそれが必要だということが一つ。
あともう一点、いろいろなものをつなげる人ということで、中間支援的な役割を果たしてくれる人を連れてくるというのが、端的に言うと地域おこし協力隊となる。
そしてその人たちは6割ぐらいが地域にとどまって移住者になって地域のプレイヤーになっていくので、そんな案があってもいいのではないかとも思います。
今回の施策体系で言われているような連環性や横断的な目標というのを実現していこうというときに、それぞれの課から重点的な施策はあげていただいているんですが、それがほんとに連携して進めていくことが出来るのかどうかというのが見えてこないかなと思います。

（委　員）　商業、工業、農業といろいろな業種があって、我々の中のコンセンサスを取っていくつもりなんですけど、会議をするだけではなくて、普段から経営者や事業者が集まって悩みを話したり開発も自由にできる場所を作っていきたいと思っているので、そこを上

手く使っていただいて、大まかなヒアリングをしていただいて、連携できそうなところを見つけたり作っていくというのも一つかと思います。

（会　長）　国ではなかなかできないですが、市町村が小さければ小さいほど実はやりやすくて、やれれば効果も大きいんですよね。
実際うまくいっているところは、行政が身動きを取りづらいところを民間が一点突破で動きが広がっていくというところがある。
いろんな動きがある中で行政が後押しをしていくという形を作っていくことがいいのではないかと思います。
そのほかにもご意見はありますか。

（委　員）　世界遺産「黒河道」を活用したイベントというところがあるが、なかなか道の活用というのは難しいと思います。
道は人が移動するものなので、移動するだけで終わってしまう。
世界遺産は活用するというよりも保存することにコストがかかってきてしまう。
道を使って事業を行うことも難しいので、活用するということであれば、入り口や出口のエリアを上手く活用しながら人を誘致するというのがいいのかなと思います。

（委　員）　なかなか手段と目的がごっちゃになっているのかなというところもあって議論が難しいんですけど、教育で言うと目的というのは人格の完成ですが、指標をみると本来目的ではない項目があがっているというのが正直な感想です。

（会　長）　農業に関していうと、個々の農家さん一人ひとりを見れば農業所得をいかに向上させるのかということになるんですけど、市の大きな計画ということでいうと、それをベースにしつつ個別農家の経済的利益で終わらないような何かをつくるということが農商工連携や6次産業化ということになってくる。
それによって、1プラス1が2以上の価値を生む可能性があるし、雇用も生むし税収も上がる。計画の場では個別農家は前提ですけど、そこだけで終わらないということを議論するのがこの場であるという気がします。
最初から立付けが難しい内容を議論しているんですよね。

（委　員）　黒河道の話があったんですけど、高野山麓にはいくつかのルートがありますよね。経済的なところで言うと、スタートとゴールのところでどれだけ儲かっているのかというところと、安全性がすごく大事だと思うんです。
今行っている事業が万全の安全体制で行えているのかというとそうではないんです。各ポイントにAEDがあるとか、イベント参加者は必ずGPSを持っているのかというとそうじゃないので。
今はたまたま事故が起こっていないだけで、今後進めていくのであれば整備が必要になってくると考える。
その時の費用というのは世界遺産によって儲かっている地元の企業などに出資してもらって整備していくということが考えられる。
町石道とかでもそうなんですけど、一度歩きに来た人は次の年も来てくれるのかというとそうではない。というのも、おもてなしとかではなく道として、景観としてしか見ていないからで、そこにもう一度何かを食べに行きたい、そのついでに登りたいといったような付加価値があまりないからだと思う。
個人的な意見としては、四国と組むべきだと思っていて、巡礼した最後の地が高野山なので、このルートはどうですかといった働きかけが一番合理的なのではと考えます。
それでなくても食事やお土産などの特別感というのをつくっていかないと長く続けていくのは難しいんじゃないかと思います。

（委　員）　基本項目１についてもう１点あるんですけど、空家等の利用件数というのがあるんですけど、空家として空家バンクに登録されている件数が少ないというのがあるので、利用件数というよりも登録件数を増やすほうがいいのかなと思います。

（事務局）　住宅環境の中に空家バンクの登録件数を増やすという項目を設けています。

（会　長）　空家の活用が進むところというのは、結局外から来る人を受け入れることに対するハードルが低くなっているところなので、仮に荷物を預かってくれるところがあるかどうかというのが問題ではなくて、他人がそこに来るということを認められるかどうかということがポイントになってくる。
中四国なんかの移住が進んでいる農山村はそういったことをクリアして、実際に人が入って空家の活用が進んでいる。

（委　員）　それだけ追い込まれてきているということなんですよね。橋本は意外と恵まれているので危機感があまりない。なので、空家も他人に触られるくらいだったら置いておこうという気持ちになるのかもしれない。

（会　長）　そのあたり、非常に関係しているんで、どこから一点突破するのかといったところだという気がします。
例えば農商工連携なんかで農家民泊とかインバウンド向けにもそういうストーリー性のある宿泊場所というのが受けたりするので、そういうところを拡大していって、外から入ってくる人が集落の中に泊まるといったことを受け入れていって、そこから移住者に来てもらってもいいかなといった、何かのきっかけから進めていくしかない。政策で決めたからといってみんながはいそうですかと動きがあるわけではないので、意識が一つ一つ変わっていく中でしか動いていかないと思います。
そういう形で地域を担っていく人をつくろうというのが関係人口づくりの話であるんですが、今のところ戦略目標の中には、そのようなまたいだような項目は出てきていないので、見えてこないですけれども。

（会　長）　それでは、一度休憩をはさんだ後に基本目標２、３について議論をしていきたいと思います。

【休憩】

（会　長）　それでは、再開します。
基本目標２、３についてどこからでも結構ですのでご意見等ありましたらどうぞ。

（委　員）　基本目標２についてですが、出産子育て環境のところで、転出を抑制して転入してもらいやすい環境をつくるということで、施策の展開に書かれている保育施設及び多様な保育サービスの充実というところはすごく重要だと思うんですが、そこについての進捗管理目標や行動指標は設定しないのか。
他にも、子ども家庭のところで、こども食堂実施団体への支援とあるが、ここのところも具体的にどんな施策をするのかというのも盛り込むほうがいいのではと思います。

（会　長）　ご質問にもなっていたかと思うんですが、もちろん重点化された項目のみあげているので、落ちているわけではないと思うんですけれども、もっと重視するべきではないのかというご意見かと思うんですけれども、このあたりで何か担当課から意見などはありますか。

（事務局）　保育施設及び多様な保育サービスの充実というところは、進捗管理目標の子育て支援センター年間参加数というのを目標にしています。これというのが、市内それぞれのこども園の中にある子育て支援センターへの参加数というのを管理目標に持ってきていますので、行動指標には触れていませんけれども、大きな目標として捉えています。

（委　員）　子育て支援センターというのはそこに行って何か相談をしたりする場所となるんですか。

（委　員）　そこには保育園の先生がいて、ママさんたちがそこへ自由に参加して、子どもを遊ばせることが出来るといった交流の場が子育て支援センターです。

（会　長）　その目標数値をあげていただいていて、ものすごく細かい数字になっていますが、そのあたりはどうでしょうか。

（事務局）　別の計画がありまして、子育て支援計画で設定された数値をこちらでも設定しています。

（会　長）　もう１点こども食堂に関する質問への答えはありますか。

（事務局）　今回の計画の中でのめざす姿というのが地域の将来を担う人材の育成や持続発展可能な地域社会となっているので、大きな項目として捉えて、行動指標のなかでこども食堂に特化した指標というのは設定していません。

（委　員）　こども食堂についてなんですけど、小さい子どもや老人が交流できる場所を増やすという面でも、広い対象で食堂をしていくほうがいいのではないかとも思います。

（事務局）　橋本東の方では地域の方に向けての食堂に取り組んでいるところもあります。

（会　長）　全国的に言うと、多世代間の交流を図る切り口として食を用いていて、地域で採れる食材を食べてもらうだけでなく、話しかけて伝えていくということをやっているところもある。
いろいろな教育や地産地消の場にできるとも思う。

（委　員）　たとえば防災面でも、地域の人で公民館や学校施設に集まって宿泊をして、避難訓練で避難経路を確認するだとかのいろいろな切り口が考えられる。

（会　長）　6 次産業化でも保存食や防災食といった形で経済の切り口を模索しているところもあるのでそういうものをみんなである程度日を決めて取組むというのもいいかもしれない。
精進野菜についても、それだけで終わるのではなくこども食堂で使っていくというのもいいと思います。そういう場でいろいろな調理法で教えていくというのも文化やふるさとを伝えていくということに使える場になる。

（事務局）　学校教育の目標には郷土の食材を活用した学習の実施校率という項目があり、今後は精進野菜を使った学習の実施も含まれてこようかと思いますが、その意識が担当課にあるのかどうかというご意見かと思いますので、今後は企画部門としても指標を作ったので、担当課相互に関連しているということを意識づけしたいと思います。

（会　長）　他のところでご意見はありますか。
子育てや男女共同参画のところなどで。

（委　員）　子育て支援センターと地域の子育てサークルが連携しという記載がありますが、子育て支援センターは園の先生がすべてやってくれるのでママさんたちも参加しやすいです。子育てサークルは各公民館単位で自主サークルとして活動していて、各年度にやりたいことを自分たちで考えるという形をとっているんですが、子どもの数が少なすぎて、私が参加していたサークルも中止になっていたり、ほとんどが活動できなくなってきています。

子育て支援センターに参加しやすいというのもありますが、働くママさんがすごく増えていて、将来のことを考えると子どもが1歳と同時に働くという人が多い。
子育てサークルでの活動を盛り上げることで、活躍できるママさんが増えてくるはずなんですけど、そこに参加できるママさんが減ったことによって、橋本市のママさんの元気がだんだんなくなってきているのではないかとも思います。
保育の無償化に伴って子どもを預けやすくなったからか、より一層働くママが増えてきている。そうなると、交流する場を作ったとしても、参加する機会がないのではと思います。

（会　長）　それは橋本に限らず、全国的なものなんですよね。
なにかそれを解決するような取組みというのはありますか。

（委　員）　橋本市では人数が少なくなって活動が難しくなったサークルを取りまとめる「ままりんぐ」という子育て支援事業をしていて、橋本市全体の子育てサークルをサポートしていきたいなという思いで活動をしています。
サークルに参加してくれる同じような志を持ったママさんが出会う場にはなっているんですけど、だいたいのママさんはすぐに働き始めてしまうので、この橋本市でも孤独なママさんが増えてしまっています。
実際に働いているママさんと交流すると、子育てに関する悩みを持ったまま社会に出てしまっているんですよね。

（会　長）　そこにはママさんだけで完結していることに問題があるのかもしれなくて、いかにパパさんを巻き込んでいくのかという仕組みも作ってはどうかとも思います。

（委　員）　ママさんの生活環境がこれまでのパパさんの生活環境になってますもんね。
家庭に携わる時間が少なくなって社会に出ていくという。

（委　員）　確かにそうですね。

（委　員）　子どもの人口を増やしていきたいというのと、社会進出を進めたいということの両立というのは難しいと思います。

働くことで出産のタイミングが合わなかったり、子育てに関わる時間が少なくなったりするかもしれない。
そこのところをどうしていくかという話になるのかと思う。

（委　員）　子どもを預けようと思ったら必ず就労証明書が必要になってくるので、働かないと子どもを預けられませんと言っているのと一緒だと思う。
待機児童がいないのであれば、就労証明書を出さなくても子どもを預けることが出来てもいいのではないかとも思います。

（委　員）　橋本市は子どもの数が減っている割に入園の審査が厳しめみたいですね。他の市だとそんなに働かなくても入園させられるよと聞いたことがあります。
私も10年間子育てをしてきた中で、ずいぶん周りも変わってきて、働かなきゃって思うママさんが増えてきていて、学童に入れるというところも増えてきています。

（会　長）　だからこそ、地域での世代を超えた交流の場というのが大切になってくるんでしょうね。

（副会長）　昔はお年寄りが子どもをみんな育ててくれたし、田舎は特に女の人は働きに出るということがなかった。でも今は時代がかわって9割がたの若者が働いている。

（会　長）　90年代からは雇用の仕組みが変わってきていて、共働きの家庭というのも増えてきている。働きたいという人も増えているが、働かざるを得ないというところもあるのではないかと思う。

（委　員）　昔に比べて、ママと過ごす時間が少なくなってしまったさみしい子どもが増えているような気がします。
小学校に上がっても幼稚園児のような心を持っていたり、何なら中学校に上がっても幼稚園児の心を持っているような子もいたりすることも心配です。

（会　長）　この議論はなかなか深いのでまた別の場でしたほうがいいかもしれませんね。
他に何かご意見はありますか。

（委　員）　子ども・家庭の項目で、のびのび教室への参加率というのがあるんですけど、これは対象は１歳８か月健診で対象となった子についてでしょうか。

（事務局）　担当課に聞き取りをしたところ、やはり１歳８か月健診というのが一番のターニングポイントではないかという意見があり、現状は保健師が案内した内の 64%の参加となっているが、今後は８割を目指していきたいということで目標に設定しました。

（委　員）　健診の中でどれくらいの子がのびのび教室を紹介されているんだろうかと思うんですけど、実際にママさんたちの声を聴くと、のびのび教室に参加させたかったけれども声がかからなかったという話もあるので。

（会　長）　この目標は、のびのび教室への参加率を上げることで支援を手厚くしていきたいという理解でいいんですよね。

（委　員）　そのあたり橋本市は保健師さんの力というのをすごく大きく感じさせてもらっているので、手厚すぎるんじゃないかって思うぐらい。
それで逆にママさんたちがやってもらって当たり前と思って自分で動かなくなってしまっているのかなという気もします。

（会　長）　この目標値の参加率を上げるだけの保健師さんの充足率というのはどうでしょうか。

（事務局）　のびのび教室への声掛けは保健師ですが、そのあとはベテランの保育士が対応するので、体制としては大丈夫です。
ただし、最初の紹介の段階は保健師しかかかわっていないので、今後は健診に保育士が待機して参加を呼び掛けるといったことも考えています。

（委　員）　これも諸刃の剣というか、子どものことで悩んでいて相談して助かったよという人と、のびのび教室を紹介されることで悩んでしまうお母さんもいるので、そのフォローというのもしっかりとしていってもらいたい。

（会　長）　今の委員の意見からすると、この目標を達成することが必ずしもポジティブではないということでしょうか。

（委　員）　中にはそう捉えてしまう人もいますということですね。

（事務局）　そこは実際に教室を紹介するにあたっても気を遣うところで、状況を見ながら進めているところです。

（会　長）　今いただいた意見というのはなかなか盛り込んでいくのは難しいですが、担当にはそういったところもフィードバックしていただければと思います。
他にご意見はありますか。

（委　員）　先ほど、こども食堂という話もあったんですが、運営の状況というのはどういった状況なんでしょうか。
二点目ですけれども、危機管理のことで、発災後のことで、避難所の生活というのがよく問題になっているのかなと思うんですが、その辺は何か考えられているんでしょうか。
三点目に、橋本市で文化財等の盗難などの被害にあったりはしていないでしょうか。

（事務局）　1 点目のこども食堂についてなんですが、現在 6 つのこども食堂があり、運営についてはやりくりが大変であるとのことです。
市の支援としては備品を買ったり、資格を取得する経費などを補助しています。令和 2 年度からは規則を改正し、クラウドファンディングでいただいたお金を使って、こども食堂の運営も含めて支援をしていきたいと考えています。
また、こども食堂の箇所も各小学校区に 1 つ程度に増やしていきたいと考えています。
こども食堂の食材についても、地域の方からいただいております。今後は地域食堂として地域をつくっていく場としての支援を行っていきたいと考えています。

（事務局）　続いて、避難所の運営についてなんですけれども、なかなか発災直後に職員が駆けつけて避難所で采配を振るうということは難しいということを前提に、今年度避難所運営に関わる準備委員会というのができましたので、そういったところで、来年度以降は自

主防災組織の活動を支援していって、その中で主体的に運営をしていただく支援をしていきたいと思っております。

（委　員）　文化財については、市内の文化財を有識者のグループで巡回を行っています。私が記録を見始めてからは盗難などはなかったかと思います。

（副会長）　文化財については管理がおろそかになっているものもあるので、しっかりと管理をしていってもらいたい。市が管理をすることが難しいというのであれば地元に協力を求めることで解決することもあると考えるので、保存に向けてしっかりと取り組みをしてもらいたい。
そうしないと今の子どもたちに文化財があるということが伝わっていかないので、もっと大事にしていかないといけない。

（委　員）　文化財は教育だけではなくて観光にもつながってくるところなので、子どもたちに文化歴史を伝えることや地域外の人に知ってもらうためにも大切にしていくべきだと思う。

（会　長）　防災の話も出ましたが、高野山麓精進野菜を乾燥野菜にしておいて防災食にして、地産地消で美味しい防災食を提供できるよというビジネスをするというのはどうでしょうか。
野菜を乾燥させると地味が深まって美味しくなるので、6 次産業や防災にも絡んでくるのかなと思います。
１つ私が気になっているのは学校教育のところで、ふるさと教育の充実なんですけど、現在の活用頻度がそのままとなっているんですが、内容を充実させていくということでしょうか。

（事務局）　現状はタブレット PC を使った時間となっていたが、今後はそれ以外も含めた時間としていきたいと考えています。

（会　長）　この時間には普通の教科については含まれていないんですよね。

（委　員）　ここでは総合的な学習の時間だけとなっていますね。

（会　長）　他にもご意見はないでしょうか。今回が最後の審議会となるので、これまでにいただいた意見を基に会長、副会長と事務局で答申案

としてまとめていきたいと思うんですが、資料が手元に届いたのが会議の前日でしたので、ご意見を頂戴する時間が必要かと思いますので、皆さん追加の意見等ありましたらメール等で連絡を頂けたらと思います。

（委　員）　スポーツのところで１点よろしいですか。
今、橋本市の子どもたちの基礎体力が落ちてきているかと思いますが、抜本的に変えていく戦略が必要になってくると思うんです。
高齢者の運動割合とか成人のスポーツ実施率というのが上がっているんですけど、まずは子どもたちの基礎体力の向上についての具体的な戦略はあるんでしょうか。

（委　員）　学校の関係では体力に関しての平均は高くなってきているんです。
特に長距離なんかは高くなってきています。

（委　員）　トップの子は全国でも高いんですが、格差が出てきています。
スポーツに関心のある子どもは高いので平均は上がるんですが、スポーツに接する機会があまりない状況があります。
放課後にグラウンドが使えないとかスポーツができる公園が少ないとかの要因がある。

（委　員）　昔のように野山を走って体力をつけてくるというようなことはなくなってきていますね。

（委　員）　昔は勝手に田んぼを走り回って、自分たちで遊びを作っていたけれども今は学校以外でそういった施策はあるんでしょうか。

（委　員）　体力向上に向けた取組みというのは学校でもやっていっています。

（会　長）　そろそろ終わりの時間が近づいていまして、この間３回にわたって基本目標の１から３まで議論を重ねてきました。
必ずしも担当課と事務局で調整していただいた案で十分だということではなかったかと思うので、いくつかの意見が出たのかなと思います。
中でも、課をまたぐようなところをどう担保していくのか、というようなことを行政の組織の中で問題を共有していくような機会をつくらないと、せっかくの議論が絵に描いた餅で終わってしま

うということを危惧されたご意見が多かったかと思います。
この後どのようにまとめていくかは非常に難しいところではありますが、後日皆さんからの意見も参考に答申として作り上げていきたいと思います。
今回が最後になりますが、委員として副市長に入っていただいていましたので一言いただいて、後は副会長にと思いますのでどうぞ。

（副市長）　建設的なご意見をいろいろといただきまして本当にありがとうございました。
この総合戦略は議論の中でもあったんですけれども、どこかに焦点を当てて、もっと議論をしたうえで作り上げたほうがよかったのかなと思う点があります。
内容が総花的になっているところもありますが、地方創生推進交付金につなげていくために盛り込みたい要素があったのかなとも思います。
長期総合計画との関連もあり今回はこのような形になっていますけども、いろいろとご意見をいただきましたので、そのあたりも十分に認識させていただいて、実際の施策を行っていく段階ではあまり焦点ボケとならないように重点的なところは重点的に頑張っていけたらと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。
本当にどうもありがとうございました。

（会　長）　それでは、副会長どうぞ。

（副会長）　今回、この会議の副会長ということでやらしてもらったんですけれど、皆さん方の貴重なご意見をたくさんいただきました。
今回の戦略というのはもう少し時間をかけて議論をすべきなのではなかったのかなと思います。
今日の会議を含めて３回での議論でありました。
行政の中につきましても、課でバラバラになっている気がします。
会長からも、副会長はいろいろな会議に出席しているという言葉もいただいたんですが、私も専門家ではないので、それぞれの会議で専門的なところまで突き詰めた議論というのはしていませんので、今回の戦略につきましても専門的な分野ではなかったんですけれども、会長と事務局と相談をしながら一つのものにまとめていきたいと思っております。

短い期間ではありましたが、皆さま方の貴重なご意見をいただいたうえにまとめていきたいと思います。
本当にありがとうございました。

(3)その他

（会　長）　それでは事務局の方にお返しをさせていただきますので今後の進め方などをご紹介いただければと思います。

（事務局）　長時間どうもありがとうございました。
今日お話しいただいた内容や追加のご意見について考慮させていただきまして、会長、副会長と策定を行っていきたいと思います。
答申書という形で今後まとまりましたら、写し等を委員の皆さまに送付させていただいてご確認いただければと思います。
それでは令和元年度最終回ということで会長からひと言お願いいたします。

（会　長）　長時間にわたりまして、議論をいただきありがとうございました。
私自身は橋本市に関しては外から眺めているしかなかったんですけど、この会議に参加させていただいて、地域の中で活躍されているいろいろな方のご意見を聞いて私自身も非常にいい勉強になりました。
ただ、相変わらず思ったのは、どの自治体のこういう会議に参加しても、なかなかそれぞれがかみ合って一歩踏み出せないというような現状にあるのかなと。
だけど、どこかから一点突破で踏み出したところで非常に賑わいが起こってきて、そのにぎわったところに人が集まってくるというのが今の地方創生の大きな流れですので、出ていく若者たちを追いかけるばかりではだめなので、住んでいる人たちが楽しく賑わっている姿で人に来てもらうという風なまちづくりというのが、まさにこれからは関係人口づくりの中で必要なのかなと思います。
橋本市の中にはそういったコンテンツというのがたくさんあるというのがわかりました。
なので、これからそこにどのように磨きをかけていって、どう関係性をつくっていって、行政の施策もうまく連動していってということが出来れば、非常にポテンシャルの高いまちがこの橋本市なんだろうなということを感じた３回の審議会でございました。
皆さんからいただいた意見をまとめてきっちりと答申させていた

だいて、その後の確認も皆さんと確認していければと思っております。
長時間にわたり本当にありがとうございました。

（事務局）　ありがとうございました。
皆様には今回委員として委嘱させていただいて、その任期は条例で３年以内となっております。
来年度以降、特に会議の予定はありませんが、策定後に内容の変更が必要になれば、ご協力をお願いいたします。
また、先ほど会長からもお話がありましたが、各部や課をまたいだ連携については、１年を振り返った評価というのを必ずしていく機会がありますので、その段階で各課の連携を確認しながら評価委員会に諮っていきたいと思います。

３. 閉会

（事務局）　それでは、これをもちまして令和元年度第３回橋本創生総合戦略審議会を終了させていただきます。
終了にあたりまして、総合政策部長の上田より一言ご挨拶を申し上げます。

（部　長）　本当に３回という非常に短い時間で皆さんに貴重な意見をいただきながら、何とか策定することが出来ました。
この総合戦略に反映することが出来ない内容もあるんですが、また戦略については５年後、あるいは途中でも見直すことが出来ますので、その時期になりましたらよろしくお願いしたいと思っています。
先ほど来、各課任せの数値になっているというところもあるんですけれども、これからは事務局としても、政策的に誘導していくという視点をもって取り組んできたいと思っていますので今後ともお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。
本当にありがとうございました。